

中央アジアの手仕事

—華麗なる刺繍とジュエリー—

広島県立美術館コレクションより

The Handicrafts of Central Asia:
Magnificent Embroidery and Jewelry
from the Hiroshima Prefectural Art Museum Collection

2026年4月11日（土）～ 6月14日（日）

開館時間

午前10時～午後6時（毎週金曜日は午後8時まで）※入館は閉館時間の30分前まで

入館料

一般1,000円（800円）、大学生800円（640円）、
高校生・60歳以上500円（400円）、小中学生100円（80円）

※（ ）内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料

※土・日曜日、祝休日は小中学生無料

※毎週金曜日は渋谷区民無料

※障がい者及び付添の方1名は無料

休館日

月曜日（5月4日は開館）、4月30日（木）、5月7日（木）

主催：渋谷区立松濤美術館

特別協力：広島県立美術館 企画協力：キュレイターズ

会場 渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14

電話：03-3465-9421 HP：<https://shoto-museum.jp>

交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分

●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません



【1】《女性用被衣（チルピ）》
テケ族、トルクメン人 19世紀（第2章）



【2】《花嫁用頭飾り》
北ヨムート族、トルクメン人
19世紀前半（第3章）

シルクロード上に位置する中央アジアでは、古代より様々な民族が行き交ったことで、多様な文化が生み出されました。ヨーロッパからアジアにいたる広大な地域を舞台にしたシルクロードの文化は日本でも幾度もブームが起きました。ところが、かつてソビエト連邦領であった中央アジア諸国（現在のウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン）は情報が得にくい地域であり、人々の伝統的な生活や豊かな工芸品はあまり知られてきませんでした。しかし近年、漫画や大阪・関西万博等をおして現地のことを知る機会が増え、その華やかな手仕事の数々に注目が集まっています。

オアシス都市に暮らしたウズベク人などに伝わる刺繍布“スザニ”や衣装は、個性的でミステリアスな文様、そして豊かな色づかいが特徴です。女性たちが手がけた布いっばいを埋め尽くす刺繍は、時代や地域を越えて人々を魅了します。一方で、砂漠地帯で遊牧生活を送っていた人が多いトルクメンは、重量感のある銀製の装身具で身を飾る習慣をつくり出しました。これらのジュエリーは装飾品としてだけでなく、厳しい環境を生きぬくための知恵と祈りが込められたものでした。

本展では、国内随一のウズベクとトルクメンの染織およびジュエリーコレクションを誇る広島県立美術館所蔵品より、中央アジアで花開いた多彩な工芸品を紹介します。それぞれの民族に伝わる刺繍布やジュエリーをおして、その繊細かつ華麗な手わざをお楽しみいただければ幸いです。

プロローグ

アジアからヨーロッパを結ぶシルクロードには、2000年以上の歴史があります。絹をはじめとする物産を運び交易路としてだけでなく、人々の文化や宗教が会う文明の道でもありました。

本展覧会で紹介する「ウズベク」と「トルクメン」は、現在のウズベキスタンやトルクメニスタンという国を中心に居住する、それぞれの民族のことを指します。中央アジアでは、オアシス都市を中心に様々な工芸美術が生まれました。8世紀に浸透したイスラム教の影響を受けた抽象文様は、テキスタイルはもちろんのこと、木工芸や金属工芸、陶器にも受け継がれ、機械では再現が難しいほど精緻で華やかな手工芸が作りだされました。

第1章 刺繍布“スザニ”の世界

スザニとは、中央アジアの主にウズベク人やタジク人の女性たちによって制作される大型の刺繍布のことです。刺繍布すべてがスザニというわけではなく、礼拝用の布を「ジャイナマズ」、赤い円文文様を「オイ・パラック」と呼ぶなど、用途や文様によって呼び方が異なります。かつては、婚礼の際にスザニを持参する習わしがあったため、女子は幼い頃からスザニの準備をしました。現代ではバザールで購入したり、ミンシン刺繍を注文するなど、簡略化が進んでいます。

第1章では、19世紀から20世紀にかけてウズベクでつくられた、色鮮やかなスザニを紹介します。



【3】《刺繍布（スザニ）》19世紀後半

スザニという言葉は、ペルシア語の「針」を意味する「スザン」から派生した言葉で、刺繍または刺繍したものを示します。家の壁掛けやこたつカバーとしても用いられ、生活に欠かせない布と言えるでしょう。

スザニは大きいもので縦横2mを越えます。そのため、大判の布そのものに刺繍するのではなく、刺繍を施した細幅の布数本を最後に縫い合わせることで一枚のスザニに仕上げます。まず、一族の代表者などが木綿布や絹布にインクで下絵を描き、内側に色名を記します。そして、女性たちが分担して主に絹糸で刺繍を施しました。縫い手が異なるがゆえに、糸の色や刺繍の刺し方が違うなど、下絵どおりに刺繍されていないものも散見される。



【4】《刺繍布（ジャイナマズ）》19世紀中期

第2章 トルクメンジュエリーの神秘

遊牧民が多いトルクメン人にとって、ジュエリー（装身具）はお守りであり、財産でした。さらに、部族や立場を示す印としての働きもありました。素材には、イスラム文化圏で清浄の象徴とされる銀が使われています。カーネリアン（紅玉髄）の赤色は、怪我や出血から身を守ると信じられ、頭飾り、首飾り、胸飾り、背飾り、腕飾り、指輪など、様々なジュエリーに用いられました。

第2章では、多種多様なジュエリーと緻密な刺繍が印象的な民族衣装を紹介します。



【5】《背飾り（ゴシャ・アシク）》
テケ族、トルクメン人 19世紀初期
ハート型のアシクという背飾りを連結したものの。背中につけることで邪視から身を守れると考えられた。



【6】《首胸飾り（ブカウ）》
北ヨムート族またはテケ族、トルクメン人 18世紀



【7】《護符入れ（トゥマル）》ヨムート族、トルクメン人 18世紀
真ん中の筒にコーランの一節を書いた紙などを入れて身につけるお守り。



【8】《鞭（ガムチ）》
ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人 19世紀後半



【9】《背飾り（サチュモンジュク）》ジャファバイ・ヨムート族、トルクメン人 20世紀初期



【10】《こめかみ飾り（アダムリク）》西ヨムート族、トルクメン人 19世紀初期



【11】《女性用刺繍靴》
エルサリ族、トルクメン人 20世紀

第3章 中央アジアを彩る手仕事

中央アジアには「来るものを拒まず」という伝統があります。シルクロードの交易地として、他民族の文化を受容してきた寛大さが、異国の人々をも虜にする多彩な工芸を生みだしました。中央アジアの人々によって育まれた「用の美」の華やかな手わざに注目してください。



【13】《飾りボタン（グルヤカ）》
トルクメン人、ヒワ 19世紀中期



【12】《男性用コート（チャパン）》
ウズベク人 19世紀末期

第3章は、来館者による写真撮影が可能です。

出品作品の所蔵先表記について

作品画像を掲載する際は、必ず所蔵先を明記してください。

一点掲載の場合はキャプションのあとに「広島県立美術館蔵」

複数掲載の場合はまとめて一か所に「すべて、広島県立美術館蔵」

◇イベント情報◇

1. 食文化セミナー

「中央アジアの食卓から～料理が語る文化と歴史」

日時：5月17日（日）午後2時～（約1時間30分） 地下2階ホール

講師：山田有佐子氏（おいしい中央アジア協会代表理事）

シルクロードの食文化のお話や、家で作れるレシピを紹介しま

す。中央アジアのお茶の試飲付き。

*無料（要入館料）

*定員70名（要事前申込、応募者多数の場合は抽選）

2. 記念講演会

「シルクロードの手仕事～ウズベクとトルクメンの染織とジュエリーを中心に」

日時：5月23日（土）午後2時～（約1時間30分） 地下2階ホール

講師：福田浩子氏（広島県立美術館学芸課長）

*無料（要入館料） *定員70名（要事前申込、応募者多数の場合は抽選）

3. コンサート

「中央アジアを紡ぐ旋律～シルクロードの伝統楽器ドゥタール」

日時：6月7日（日） 午後2時～（約1時間） 地下2階ホール

出演：駒崎万集氏（ドゥタール奏者）

*無料（要入館料） *定員70名（要事前申込、応募者多数の場合は抽選）

●締切（すべて必着）

1. 食文化セミナー：4月27日（月） 2. 記念講演会：4月27日（月） 3. コンサート：5月11日（月）

その他イベント

4. 学芸員によるギャラリートーク

4月26日（日）、5月9日（土）、15日（金）

各日午後2時～（約40分）

*無料（要入館料） *事前申込不要

5. 館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

4月17日（金）、24日（金）、5月1日（金）、8日（金）、15日（金）、22日（金）、29日（金）、6月5日（金）、12日（金）

各日午後6時～（約40分）

*各回定員約20名 *無料（要入館料） *事前申込不要

◇次回展覧会のご案内◇

「没後50年 高島野十郎展」 7月4日（土）～ 9月6日（日）

報道関係のお問い合わせ

広報担当（白石） pr-sma@shoto-museum.jp 電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

*画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。

*画像のご利用後、データは破棄してください。 *画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。

*基本情報確認のため、一度校正をお送りください。 *掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。

■ 1～3 イベント申込方法

往復はがきまたは当館ホームページ上の申込フォームにて承ります。1通につき1名のみ申込み可能。応募者多数の場合は抽選となります。

● 往復はがき

〒・住所・氏名（ふりがな）・日中連絡のつく電話番号、参加希望のイベントをご記入の上、中央アジア展イベント係まで。

● 申込フォーム

当館ホームページ上のイベントフォームからお申込みください。

※迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に

当館からのメール「@shoto-museum.jp」

が受信できるようにドメイン設定をお願いいたします。